

こどもニュース

No. 2.

4/13 発行



【新しい年度が始まりました！】

お子様のご進級・ご入園おめでとうございます。

新しい年度の始まり、始業礼拝は親子で迎える事ができました。親子で迎える学期の礼拝は新型コロナウイルスの影響を受け3年以上実施できませんでした。昨年度の終業礼拝に続き、子ども達と皆様と一緒に礼拝を守れたことが嬉しく胸が一杯になりました。進級した誇らしさを身体全体で表現する子ども達が輝いていましたね。

【スタートを丁寧に！】

—2 日間の年中長保育—

始業礼拝後5日、6日には年中長児保育を行いました。

私たちはこの2日間をとっても大事に考えています。

新しいクラス、新しい先生、子ども達なりに進級への期待や不安を胸に登園してきます。そのスタートに丁寧に寄り添い、また「久しぶりの幼稚園だったけど、やっぱり楽しかったー！」という2日間にしたいと願い、スタッフも様々な遊びの準備をして臨みました。不思議な事に始業礼拝を含め3日間で子ども達の表情がグーンと変わっていきます。それは子ども達自身に「大きくなった」という意識があるからでしょう。異年齢混合、縦割りの保育では身近に「こうなりたい」「次は〇〇ちゃんのようになる」という具体的な「モデル」がいます。

進級した年中さん、年長さんは「自分は〇〇ちゃんのようになった」と実感しているのでしょうか。その自覚が子ども達を成長させてくれるのですね。

—はじめでの「年中・年長あつまり」では—

水曜日には早々、進級して最初の「学年あつまり」が持たれました。

さっそく「なにがしたいか」を子ども達と相談。園では年齢が上がるにつれ、子ども達自身と相談しながら活動を決めていくのです。

「年長あつまり」では年長としての「役割」についての相談がありました。そうです、年長さんは園生活を「運営」する役目がたくさん！

お片付けの「ベル当番」片付け終了頃に園内を見回ってくれる「KMT 当番(何の略語か子ども達に聞いてみてくださいね)」2学期からの体操リーダーetc....

それらの話を聞く子ども達の後ろ姿に驚きました。背筋がピンと伸びて、一人ひとりがいろいろな意見を言っていて、本当にもうすっかり「年長さん」の後ろ姿でした。

これも前の年長さんの姿に憧れ、具体的なイメージを持てる「縦割り保育」ならではの姿と感じました。その後、早々じゃが芋植えに挑戦。芽が出るのが楽しみです！

一方、年中あつまりも負けていません。「どんな事をしてみたい？」という保育者の問いかけに次々と意見が出されていました。つい先日まで泣いていたのに「年少さんが来たなら教えてあげる！」と張り切る姿に頼もしさを感じました。


【園生活スタート！泣いてもいいよ、年少さん！】

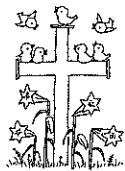
入園式はあいにくの雨でしたが「降ってしまいましたね」と声をかけると「恵みの雨ですね。たっぷりと蓄えれますね。」と答えてくださったおうちのかたがいらっしやいました。なんて素敵！どんな事も感謝して保育にあたりたいと想いを新たにしました。

そして無事入園式を済ませ、いよいよ毎日の登園が始まった年少さん。初日の月曜日はわけもわからずエントランスで「行ってきまあす」とおうちの方と別れたものの、事態がわかった翌日からは「行きたくない！」と坂道の途中からしぶる姿も。また園内でも「おかあさん」と泣く子もいて、これからしばらく様々な「ドラマ」が繰り広げられることでしょう。

はじめておうちの人と離れ社会生活をはじめたわけですから心細くなったり悲しくなっても当たり前です。どうぞ、その気持ちを否定したり無理に頑張らせず、おうちの方自身も焦らず、温かく見守りつつ送り出してあげましょう。

(早く慣れて元気よく遊んでほしい)と思うのも親としては当然ですが、大人でも新しい環境に慣れるのには時間がかかるものです。「幼稚園が楽しくなる日はきっとくる」と信じて待ちましょう。とはいえ、心配も尽きないものです。どんな小さな事でもスタッフにお聞きください。子ども達の成長を分かち合い喜び合うために、園ではこの「子どもニュース」を発行しています。子ども達の遊びの様子、保育者の想いなど「幼稚園の今！」を載せ随時発行していきます。どうぞよろしく願いいたします。

児玉 芽 



キリスト教のこの言葉ってなあに？

『おいのり』…てなあに？

神さまとお話することです。

神さまは目には見えないので目を閉じ、手では触れることができないので、手を組みます。そして「かみさま」と声をかけると神さまは、その言葉を聞いてくださいます。嬉しいことも、悲しいことも、友だちのことも神さまにお話しして聞いていただくことです。「ありがとう」と感謝のお祈りをすることもあります。

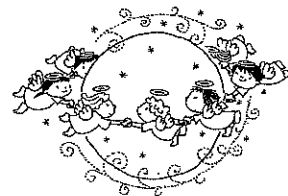
幼稚園では、食事の前と降園前のクラスのアツまりの中、そして水曜日の礼拝でお祈りをしていますが、（神さまにお話ししたいな）と思ったら、いつでもどこでも、どんな時でもできるのがお祈りです。



『アーメン』…てなあに？

お祈りの最後に言う言葉です。

ヘブライ語で「真実に」「確かに」という意味があります。「今お祈りしたことは本当です」「全くその通りです」とみんなで心を合わせて言います。



『けんきん』…てなあに？

神さまの恵みに感謝して、私たちの気持ちをあらわして献げるものです。

今日はいいお天気、気持ちがいいよ。神さま、太陽を造ってくださってありがとう
きれいな花を咲かせてくれてありがとう
友だちといっぱい遊んだよ ありがとう
おいしい食べ物をありがとう
おとうさん、おかあさんをありがとう
私を造ってくださって、ありがとう



私たちの周りにあるたくさんの「ありがとう」を一つひとつ数えて、それを献金という形であらわし、広い世界のどこかで苦しんでいる人の為にお役に立てたら…と考えます。金額ではなく、喜んで献げる気持ち、心を込めて神さまのご用の為に使っていただくとする気持ち、そんな心が子ども達の中に育って欲しいと願っています。